

国土と神々の誕生

天地初めて発はれし時に、高天原に成りし神の名は、天之御中主神。次に

高御産巢日神。次に神産巢日神。この三柱の神は、並に独神と成り坐して、身

を隠しき。次に、国稚く浮ける脂の如くして、久羅下那州多陀用弊流時に、

葦牙の如く萌え騰れる物によりて成りし神の名は、宇摩志阿斯訶備比古遲神。

次に天之常立神。この二柱の神もまた、並に独神と成り坐して、身を隠しき。

上の件の五柱の神は、別天つ神ぞ。

次に成りし神の名は、国之常立神、次は、豊雲神。この二柱の神もまた、独神

と成り坐して、身を隠しき。

次に成りし神の名は、宇比遲邇神、次は、妹須比智邇神。次は、角杵神、次は妹

活杵神の二柱。次は、意富斗能地神、次は妹大斗乃弁神。次は於母陀流神、次

は妹阿夜訶志古泥神。次は、伊耶那岐神、次は妹伊耶那美神。上の件、

国乃常立神から伊耶那美神まで、合わせて神代七代と称す。上の二柱の独神

は、各一代と云う。次の雙の十神は、各合わせて二神を一代と云う。

ここに、天つ神諸の命以て、伊耶那岐命、伊耶那美命の二柱の神に、この

多陀用弊流国を修理ひ固め成せ、と詔ひ、天の沼矛を賜ひて、言依し賜ひき。

故、二柱の神、天の浮橋に立たして、その沼矛を指し下して画きしかば、塩

許許哀哀呂呂に画き鳴して、引き上げし時に、その矛の末より垂り落ちし塩は、

累なり積りて、島と成りき。これ、於能基呂島ぞ。

その島に天降り坐して、天の御柱を見立て、八尋殿を見立てき。ここに、その妹

伊耶那美命を問ひて曰ひしく、汝が身はいかに成れる。答へて曰ひしく、吾が身

は成り成りて成り合はぬ処、一処ありき。爾くして、伊耶那岐命の詔ひしく、

吾が身は成り成りて成り余れる処、一処あり。故、この吾が身の成り余れる

